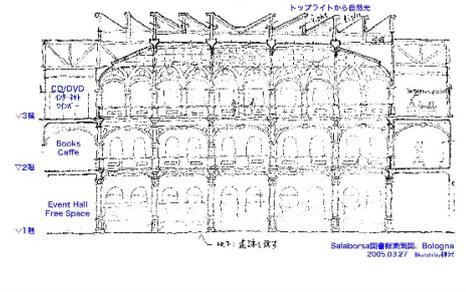


<b>■After</b> <b>建築名称</b> 下段: 英語名	<b>サラボルサ図書館</b> La Biblioteca Salaborsa		
<b>建築用途</b>	<b>大分類</b> 図書館資料館	<b>小分類</b> 図書館	
<b>改修設計者</b>	Roberto Scannavini	<a href="#">URL</a>	
<b>所在地</b>	イタリア、ボローニャ	<a href="#">Google Map</a>	
<b>改修年</b>	2001		
<b>建築規模</b>			
<b>掲載書誌</b>			<b>After</b> かつて証券取引所などに使われていた大空間
<b>賞・選定</b>			
<b>概要 after</b>	歴史的な建物を保存活用したマルチメディア図書館。書籍の他、オーディオブック、新聞、雑誌、ビデオなど多様なデジタルリソースを利用できる。大ホールのガラス床下には紀元前時代の遺跡が残されている。		
<b>■Before</b> <b>建築名称</b>	<b>Palazzo d'Accursio</b>		<b>概要 before</b> 元は1350年代に軍隊の本部として建てられた要塞が、16世紀には植物園に改造され、その後、証券取引所や銀行、庁舎などとして使われていた。
<b>建築用途</b>	<b>大分類</b> 事務所	<b>小分類</b> 証券取引所	
<b>■写真</b> <b>Before</b> 建物の断面スケッチ	<b>After</b> 新聞や雑誌を閲覧するフリースペース	<b>After</b> 新しい屋根を掛け、自然光の入る3階フロア	
			
<b>作図</b> 柳沢伸也(2005年)	<b>撮影者提供者</b> 柳沢伸也(2017年)	<b>撮影者提供者</b> 柳沢伸也(2017年)	
<b>■リノベーション内容</b>	<b>キーワード</b> 用途変更、大規模改修、外観保存、補強、遺構	<b>内容</b> かつて証券取引所や庁舎として使われていた歴史的な建物を、その特徴ある大空間を生かして転用したマルチメディア図書館。屋根付きの広場を中心に3層のフロアがロの字型に配置され、書籍の他、オーディオブック、新聞、漫画、雑誌、地図、ビデオ、CD、DVDなどさまざまな種類の文書を閲覧することが可能。地下に残る紀元前時代の遺跡を見せるために、1階床はガラス張りとし、自然採光を確保するために屋根には鉄骨トラス屋根がかけられた。開設時には、2階にカフェレストランや本屋が入り、3階にはインターネットポイントやCD、DVDを視聴するオーディオライブラリーが中心だったが、時代の変遷とともに、新聞や雑誌などを閲覧するフリースペースが増やされ、オーディオスペース等は縮小された。広場では常にイベントが開催されるなど、時代と共にアレンジしながら利用されている。図書館入口はマジョーレ広場に面しているものの、かつての要塞を保存したままのため、小さく目立たない玄関となっている。	
<b>■備考</b>	サラボルサとはイタリア語で「証券取引所」という意味で、図書館の名称はここから由来している。設計者のロベルト・スカンナヴィーニ氏は役所所属の建築家で、有名な歴史的市中心街地の保存再生を主導したことで知られる。		
<b>■作成者</b> 氏名/所属	柳沢伸也/JIA再生部会		<b>管理者</b> 記載 SY-017